

令和5年度 江戸川区立葛西中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	「豊かな心」 ・自ら進んで学ぼう ・責任を果たそう ・健康な生活を送ろう	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒 ・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師
--------	---	----------------------------	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>・各行事においては、昨年度は感染対策を実施しながら、すべての行事を実施することができた。 ・学習タブレットを活用した授業も、学校全体で軌道に乗り、活用する授業も非常に多くなった。</p> <p><課題>・コロナ対策による影響か、不登校生徒の人数が非常に多くなっている。学校の求心力を高め、不登校の生徒数を減少させること。 ・ICTの活用は、授業だけでなく、校務にも積極的に活用し、働き方改革につなげていくこと。</p>
-------------------	--

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・校内研修(都教委訪問等)等において、全教員が一人一回以上、研究授業を実施。 ・学力に課題のある生徒に対して、学習習慣を身に付けさせるために、補習教室の委託会社と連携を強化し、年間を通して、補習教室の出席率を向上させる。	・生徒授業評価において、「分かる授業の設問」において、肯定的意見が80%以上。 ・参加生徒において、出席率80%以上。	B	B	・都教委訪問による、研究授業は9月22日に実施した。生徒授業評価による「分かる授業の設問」において、肯定的意見が85%を超えた。 ・今年度より、参加者を集めるに当たり、事前の面談等で、参加に対する意識の確認を行ったため、前期は出席率は90%以上であったが、2学期の後半から70%以下になった。	B	・熱心にご指導いただきありがとうございます。 家庭学習等、保護者も協力して、学習習慣を身につけさせる必要があると考えます。	・教師の授業改善は、継続的に実施していく。 ・補習教室の継続して参加率をあげるため、保護者と協力しながらは、継続して指導していく必要がある。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 <図書館の活用の更なる充実> ・図書館の活用の充実	・各学年において、読書紹介や新聞づくりなどに向けて探求的活動を行い発表を行う。年1回以上実施する。作成した作品を、調べる学習コンクール、読書科コンクールに出品する。 ・学校図書による、学校図書館の整備と学校応援団によるボランティアの企画と整備	・読書科に取り組み、図書館の活用において、保護者アンケートの肯定的意見70%以上。	A	A	・探究的な活動のまとめとして、夏休み等を利用して、作品づくりを行った。出品した作品が、調べる学習コンクールの江戸川区で銀賞、全国で佳作の賞を受賞した。 ・学校応援団によるボランティア活動を3回実施した。各回、10名程度の生徒が参加。今後はさらに意識を高めていきたい。	A	・今年度の成果が、引き続き次年度も達成できることを期待しています。	・図書館ボランティアも含めて、図書館を利用した活動を増やし、本への興味・関心を広げる。 ・「読み方部」との連携も企画していく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・年間を通して、体育の授業において、5分の補強運動と3分のランニングを実施する。 ・昼休みの「外遊び」の奨励	・生徒授業評価アンケートにおいて、「自分が体力がついた」と考える生徒70%以上	A	B	・体育の授業において、5分以上の補強運動を継続して実施している。成果は、生徒授業評価において、授業に対する肯定的意見が80%を超え、「課題にとりくんだ、体力がついた」等達成感を得ている生徒が77%であった。	A	・部活動をいつも熱心に指導していただき本当にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。	・組織的な補強運動の取り組みを図る。 ・より一層の運動部の活動の活性化を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・「ユニバーサルデザインの視点を授業にどのようにとり入れるか」を狙いとした研修を実施。 ・特別支援コーディネーターが特別支援専門員、心理士、SCとの連携を強化し教育相談委員会を通して、エンカレッジルームの活用を促進する。	・特別支援教育に対する保護者の学校評価アンケートにおいて肯定的意見、80%以上	B	B	・9月22日の都教委訪問において、ユニバーサルデザインの視点をどのように取り入れるかを研修した。 ・教育相談委員会を通して、各生徒の課題の共通理解や各生徒への組織的な対応は強化されてきている。特別支援教室の教員と担任との連携もスムーズになり、エンカレッジルームを有効に活用しながら、支援体制が確立できている。保護者の学校評価アンケートにおいては、肯定的意見が60%であるが、わからないの回答が28%を超えているので、否定的意見は10%程度である。今後は保護者に何を実施しているかを周知し、理解させていく必要がある。	B	・保護者アンケートにおいて、「分からない」という評価が多いのは課題です。アンケートをとる時も、含めて、実施していることをもっとアピールして良いと思います。	・支援が必要な生徒の全校の共通理解。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hpaer-QUの活用	・不登校生徒等、なかなか教室に入ることができない生徒に対して、別室登校、学校サポート教室等の外部機関への通室など普通教室以外への登校を、SC、SSW等と速やかに連携し円滑に進める。 ・hpaer-QUを年2回実施する。調査結果をもとに、外部講師を招き、よりよい学級づくりのための研修を実施し、学級の改善を図る。	・不登校生徒において、改善傾向を示す生徒50%以上。 ・2回目のhpaer-QUにおいて、改善傾向の示す学級70%以上。	B	B	・SSWとの連携により対応している事案が増加し、一定の成果が上がっている。9月より別室指導支援員による、別室の居場所づくりも実施している。利用者が延べ、30名弱である。別室の支援の効果で、完全に登校することはできないが、改善傾向にある生徒は、50%は超えた。 ・hpaer-QUを5月と11月に実施し、学級の傾向について実態把握を行った。1学年においては、中学校の大変さからか、2回目の結果の方が課題が多いクラスが見受けられた。2学年、3学年の学級はほぼすべてのクラスで改善傾向がみられた。学校全体では、73%の学級が改善傾向が見られた。	A	・不登校生徒に対して、学校だけでなく、たくさん外部機関と連携して対応していることに、非常に有難く感じます。不登校の問題は、社会問題です。学校だけでなく、社会全体で考えて行く必要があると思います。	・教育相談委員会を通して、不登校生徒の対応をさらに速やかに外部機関等、実態に応じた機関と連携をできるよう促し、改善傾向を示す事例を増加させる。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校日記や学校の情報を積極的にホームページで発信し、随時更新する。 ・年4回の土曜日の学校公開、各行事は感染症対策を実施しながらも、入場人数の制限を設けずに実施する。	・保護者アンケートにおいて、開かれた学校の項目の肯定的な意見、80%以上を目指す。	A	A	・学校日記で、随時学校の情報を発信している。今後は、更新を積極的に行う、教職員を増やしていくことが課題である。 ・学校公開は、年間4回実施し、昨年度より参観者が増加した。totoru等を利用して、案内を配信しより参観しやすい環境をつくった。、開かれた学校の項目の肯定的な意見、90%を超えた。	A	・多くの行事等に参加させていただき、学校をよく知ることができました。ありがとうございました。	・ホームページの更新は、継続して実施していく。 ・「totoru」を利用し、保護者が学校公開や学校行事に参観しやすい環境のさらなる構築を図る。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回の学校評議員会において学校関係者評価の内容の検討、改善を図る。	・学校関係者評価の内容に関して、肯定的意見80パーセント以上。	A	A	年度当初、中間、そして最終と学校評議員会において、3回検証を実施した。	A	・次年度もよろしくお願いいたします。	・第3回の評議員会をより活発な意見交換の場とする。
特色ある教育の展開	<防災教育の充実> 災害発生時の対応の場合の共助の心の育成	・夏休みにPTAと連携した防災体験教室を夏休みに実施	・実施後のアンケートにおいて、肯定的な意見80%以上	A	A	9月3日にPTA、地域防災課、消防署等と連携して実施した。実施後の、生徒・児童のアンケートでは、ほぼ全員肯定的な意見であった。	A	・素晴らしい行事です。私たちが参加させていただき、防災意識を向上させることの大切さを実感しました。	・防災意識の向上、地域との連携で非常に効果の高い行事である。次年度も実施よいてある。
	<心を育む教育の充実> 鑑賞を通して、豊かな心の育成	・11月に、全校生徒対象に、生徒が楽しむことができる、鑑賞もしくは体験活動を実施する。	・実施後のアンケートにおいて、肯定的な意見80%以上	A	A	12月1日に「バントマイム」の芸人の方に公演していただき、生徒が鑑賞した。公演後のアンケートにおいて、100%の生徒が、肯定的な内容の回答であった。	A	・子供たちにとって、非常に楽しい行事、ありがとうございます。	・生徒にとって非常に好評な行事である。次年度も同じ形式で実施予定。